児童真剣 科学実験

ビタミンC多い食品突き止めた

南区の純真短大で公開講座

ビタミンCの含有量を一つずつ調べる子どもたち

福岡市南区筑紫丘の純真短大食物栄養学科は7月29日、公開講座「笑顔でジャンプ！食育でジャンプ！」を開き、食材を使った科学実験とランチ作りの2講座を行った。参加した子どもたちは夏休みの思い出作りを楽しんだ。

講座は食に関する実験を体験することで理科に対する知的好奇心を養ったり、食に対する興味を持ってもらおうと実施。毎年多くの子どもたちが参加する人気のイベント。

科学実験の講座には小学1～6年生35人が参加、今回は「ビタミンC」をテーマに学んだ。子どもたちはオレンジやブドウなどの果物やピーマン、ニンジンなどの数種類の食材を使って、ビタミンCの有無と含有量を調べた。含有量は実際に計算して数字に表す実験にも挑んだ。

子どもたちはビタミンCが多そうな食材を予想したり、初めて使う実験器具や試薬にとまどったりしながらも実験を楽しんでいた。

同区鶴田の2年生宅間諒君(7)は「ビタミンCはこんなものなのかなと思った」、太宰府市国分の4年生中村光貴君(9)は「予想と違ってビタミンにビタミンCが多いことがわかった」、弟の2年生颯志君(7)は「いっぱい混ぜるところが面白かった」と喜んでいた。

総踊

和気あいあいとした雰囲気で行われており、千応えを感じている。来年もよりよい祭りになるよう、みんなで力を合わせていきたい」と話していた。

和太鼓演奏を奏納する宇美八幡宮保育園児たち

ボロボロの本にびっくり

一日図書館員「大切に読みたい」

新宮町立図書館 19人が仕事体験

開架書庫で雑誌を配架する子どもたち

新宮町立図書館（落石訓館長）は7月26、29日の2日間、地域の子どもたちに図書館の仕事を知ってもらい本に親んでもらおうと、小学5、6年生を対象に「一日図書館員体験」を行い、計19人が参加した。

26日は5年生10人が職員らの指導を受けながら、本の貸し出しや返却などのカウンター業務や、返却された本を書架に戻す配架作業、傷んだ本の修理作業などに取り組んだ。普段は非公開の閉架書庫にも立ち入り、収蔵されている本の分類の仕方を教えてもらったり、雑誌を配架したりして、図書館の仕事への関心を高めた。

新宮小5年、宮本祐汰君(10)は「ボロボロになった本が多くてびっくりした。自分も借りた本は大切に読みたい」と話し、新宮東小5年、鴨川美音さん(10)は「カウンター業務が楽しかった。図書館の仕事は思った以上に大変だった」と体験を振り返っていた。

沢登りを楽しむ子どもたち

大野城で親子ら20人参加「セミやカマキリ捕ま

おおのじょう緑のトラスト協会（浦屋奈美子理事長）は7月23日、大野城市牛頸の同会事務所と周辺で、会員の親子ら約20人が参加したイベント「沢遊び&ネイチャークラフト」を開いた。

同会は活動地の下草刈りなくの沢へ移動。約500㍍のなだらかな沢登り体験と、沢遊びを楽しんだ。子どもたちは何度も滝のような場所から飛び降り、「気持ちいい」といいながら、全身ずぶぬれになってはしゃいでいた。

その後事務所に戻り、カットされたヒノキの木切れで写真立て作りや、竹で作られた輪投げなどのゲームを楽しんだ。夕食は流しそうめんや手作り窯で焼かれたパンなども振る舞われ、ひとときの"涼"を楽しみ、料理に舌鼓を打った。

同市山田の小学3年神田橋幸也君(9)は「セミやカマキリを捕まえたり、沢で深いところに飛び込んだりして面白かった」と笑顔を見せた。

154団体が東区ネット

暴力追放願い 区民大会開く

東署は3月から、「犯罪の起きにくい社会づくり」に向けて、自警団・ボランティア団体・企業などに呼びかけ、6月17日、154団体による「東区安全安心ネットワーク」を設立しました。

ネットワークは関係機関の連携強化、情報の共有化を行い、安全で安心して暮らせる地域社会の実現を目指しています。

この日は、東署管内にある県神社庁で、ネットワークの構成員ら約500人が参加し、「暴力追放・地域安全東区民大会」を開きました。全員が大きな声で拳を突き上げ、「暴力三ない運動」のシュプレヒコールを行い、さらに、国道3号をパレードして、暴力追放を訴えました。

参加した人からは「東区民の結束が一層、強くなった」「みんなの力で東区を犯罪のない町にしよう」という声が上がり、有意義な大会となりました。

東署は今後も、ネットワークの構成員らと「犯罪の起きにくい社会づくり」を進めていきます。

春日市をテーマにした曲などを演奏し会場を盛り上げた

参加希望増

わがまち

春日 2日

ズムを取りながら生の音楽に耳を傾けた。

コンサートは音楽にあふれる町づくりや地域活性化を目指す実行委（鶴田幸生実行委員長）が主催。見たいグループのステージを自由に観覧できるとあって、多くの人が訪れる人気のイベント。参加グループも年々増え、今年はオーディションも行った。

23日は18組、24日は12組の市内外で活動するグループがフォークやゴスペル、三味線やピアノの弾き語りなどを20～30分ずつ披露し、観客から大きな拍手を浴びた。実行委の喜島克三郎さんは「来場したお客さんを裏切らないように、生の演奏にこだわって、心に染みる演奏ができれば」、鶴田実行委員長は「夏の春日市の名物演奏会にしたい」と話していた。